

洋洋乎たる大瀛の

作詞：寺師弘訓(大中3回卒)

1. 洋洋乎^こたる^{だいえい}大瀛の

高なる潮の ただ中に
お 生い伸びてゆく 男等の
集えるところ 我が学舎

洋：広いさま、多いさまを形容する
洋洋乎：水が満ちて広がっているさま、
広大なさま
瀛：うみ、大海

2. 燃ゆる血潮 わが誇り

とばし 進^{ふる}る力 奮^{ふる}いては
大中(高)の意気を 示すべく
遠征路につく 君奮^{ふる}え

迸る：飛び散る、ほとばしる

奮う：勢いよく勇み進むこと

3. 勇士は集う 晴れ舞台

熱球おどる 白鶴城^{はつかくじょう}
南島健児の 意気をもて
死すとも挿頭^{かざ}せ 月桂冠^{げっけいかん}

白鶴城：鹿児島城(鶴丸城)の別呼
城跡に七高造士館が建てられた

挿頭す：花、枝、造花を髪または冠にさす
月桂冠：月桂樹の枝葉を輪にしてつくった冠。
(古代ギリシャで競技の優勝者にかぶらせて
賞讃の意を表した。)

※元歌は七高の対五高応援歌「夕栄雲の色あせて」で、安陵では、選手を送る時、
推戴式や海岸の船着場で歌った。

